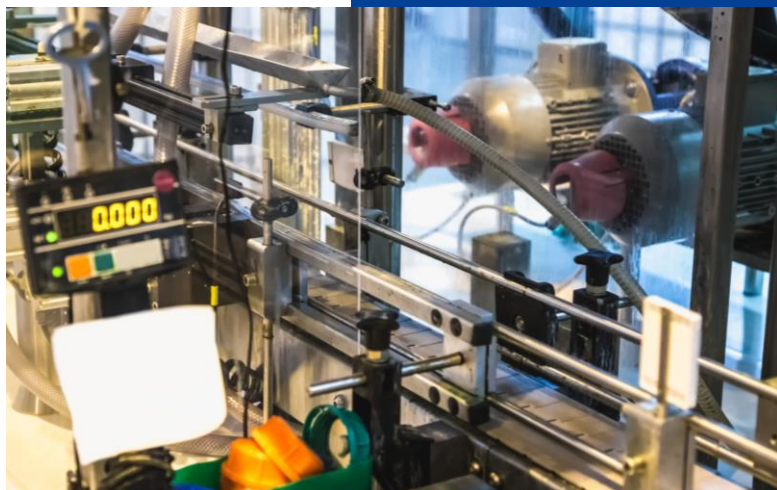


# 予知保全への注目高まる 工場の最適稼働のための投資

トラブルが起きていないので大丈夫。ただ、いざトラブルが発生すると大損害。安定的な生産活動を実現させるための予知保全への注目が高まっています。



## 安定的な生産活動のために 総合的な設備管理としての予知保全

### ■注目が集まる「予知保全」とは？

従来の「壊れてから直す(事後保全)」や「時期を決めて直す(予防保全)」に代わり、新たなスタンダードとして注目を集めている保全手法です。設備のデータを監視し、最適なタイミングでメンテナンスを行うことが期待されています。

### ■モータの振動値から故障の予兆を検知

モータの稼働状況から「振動値」をリアルタイムで検出し、解析。これにより、人の感覚では捉えきれない物理的・機械的な故障の予兆を、数値としてつかむことが可能になります。

### ■トラブル発生前の対策で、甚大な損害を回避

最大の特徴は、実際にトラブルが起きてラインが停止する「前」に予兆を捉えられる点です。突発的な設備停止は、生産計画の狂いや大きな損害に直結します。そうした「止まっては困る重要な場所」にこそ、予知保全の導入が進んでいます。設備の安定稼働に向けた第一歩として、ぜひお早めにご相談いただけますと幸いです。

## 予知保全の相談が多い事例 (当社実績)

- 1: 生産設備(モーターの劣化等)
- 2: 高所に設置された設備
- 3: PLCの劣化

### 《ポイント》

ご相談のご共通点として挙げられる点は「人手で管理がしにくい」ことです。人が立ち入れない、触れられない設備、かつ、停止すると損害が大きい設備への導入相談が多いです。



**濱坂電機株式会社**

脱炭素提案営業チーム 担当：新井（アライ）

群馬県伊勢崎市境伊与久1938 TEL (0270) 76-5591 FAX (0270) 76-5590

Mail: carbon-z@hamasaka.co.jp





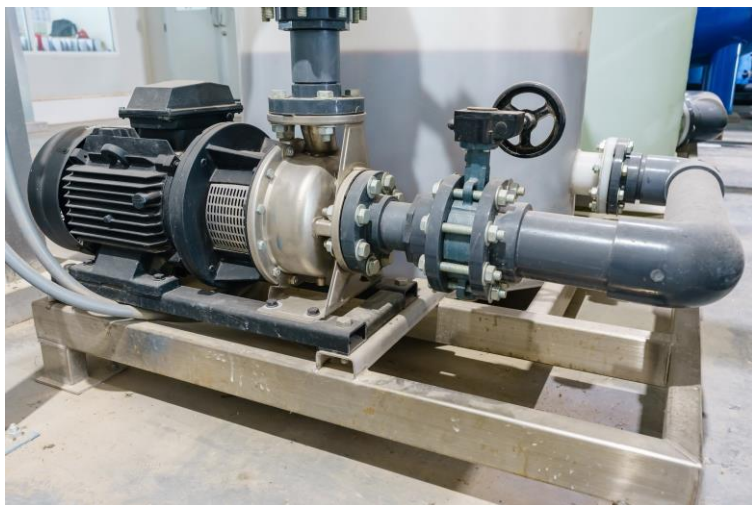
## SSBJ基準の対応準備 脱炭素要請強まる方向へ

時価総額の大きい企業から順次、新しいサステナビリティ情報開示基準である「SSBJ基準」の適用が義務化される見通しです。具体的な時期は検討中ですが、将来的には全プライム市場上場企業へと対象が拡大される方向で議論が進んでいます。

SSBJ基準の重要なポイントとして、Scope3(サプライチェーン全体でのGHG排出量)の開示要求が挙げられます。この潮流により、自社のみならずサプライチェーン全体での脱炭素化が必須となり、上場・未上場を問わず、大手企業のサプライチェーンの一翼を担う企業に対して、脱炭素への具体的な対応が強く求められることになります。同時に、顧客企業側が投資家をはじめとするステークホルダーから高い信頼を得るためには、サプライチェーン上の企業との一貫した取り組みが不可欠です。仮にその要請に応えられない場合、取引継続の方針について見直しの対象となる可能性も考慮せねばなりません。

脱炭素は自社の業績を維持し、伸ばしていくためにも重要な観点として、今後さらに注目されることになるでしょう。

### 流体の電磁弁制御



工場内を巡る冷水や温水などの流体配管は、生産活動に必要な「熱エネルギー」を運ぶ重要なインフラです。しかし、稼働していない設備やエリアに対しても常に流体を供給し続けることは、熱の放散や搬送動力の無駄といった「エネルギーロス」に直結します。そこで、電磁弁を用いて不要な系統への供給を自動的に遮断する制御を導入します。これにより、必要な場所に必要な時だけエネルギーを供給する「最適な稼働状態」へと切り替え、工場全体のエネルギー効率を最大化します。

### ハマNavi通信 Staffより



**制御から実現する  
脱炭素。設備更新も  
大切だが、最適稼働は  
もっと大切。**

脱炭素提案営業チーム  
新井

脱炭素を実現するためのアプローチには、大きく分けて「設備更新」「付帯設備の導入」「最適稼働」の3つの要素があります。これらを全て網羅するのが理想形ではありますが、現実には設備更新や付帯設備導入は、コストや工期の面でハードルが高くなるケースも少なくありません。

そこで注目していただきたいのが、私たちの強みの一つである「制御」です。新しい設備を入れる前に、今ある設備を「いかに無駄なく、賢く動かすか」。つまり、「最適稼働」こそが、脱炭素への最初にして最良の一步であると私たちは考えています。ぜひ皆様の課題をお聞かせください。



**濱坂電機株式会社**

**脱炭素提案営業チーム 担当：新井（アライ）**

群馬県伊勢崎市境伊与久1938 TEL (0270) 76-5591 FAX (0270) 76-5590

Mail: carbon-z@hamasaka.co.jp

脱炭素のご相談から電気設備・電気制御まで、右記のQRコードよりご相談ください！

